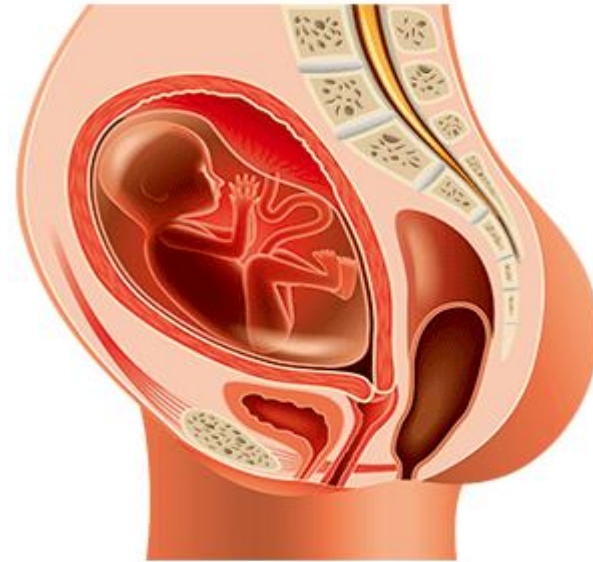


プラセンタ

プラセンタとは

- 哺乳動物の胎盤のことです。胎児は胎盤にへその緒で結ばれ栄養や酸素を受け取り、排泄物を母親に渡しながら成長していきます。その他胎盤はホルモンや生理活性物質、各種の成長因子などすべてを胎児に供給しさらに毒物や異物の侵入から胎児を守る免疫機能も果たします。



プラセンタの成分

- **栄養素**

五大栄養素である脂質、糖質、タンパク質、ビタミン、ミネラルを含み、身体を作るだけでなく、エネルギーとなり代謝を活発にする働きをします。

- **成長因子**

- 成長因子が肌や体の細胞の新陳代謝を整えます。

- **酵素類**

- 約100種類近くの酵素が確認されており物質の消化、吸収、代謝、排泄など、生命の維持に関わっています。

- **核酸**

- 核酸の働きによって正しく新しい細胞が作られ私たちの身体は健康が保たれています。核酸が不足すると細胞の新陳代謝がうまく行われなくなり老

- 化の原因となります。

- **ムコ多糖**

- ムコ多糖の代表的なものは、ヒアルロン酸やコンドロイチン硫酸などで細胞や肌に水分を保持します。

プラセンタの効果 1

- **美肌効果**

- 肌の新陳代謝が乱れると角質層が壊れ紫外線やストレスなどから肌を守ることができなくなり、肌荒れやシミ、シワを招きます。プラセンタは、肌の新陳代謝を整え正常化し、肌の水分保持にも働き肌を美しく保ちます。

- **アンチエイジング効果**

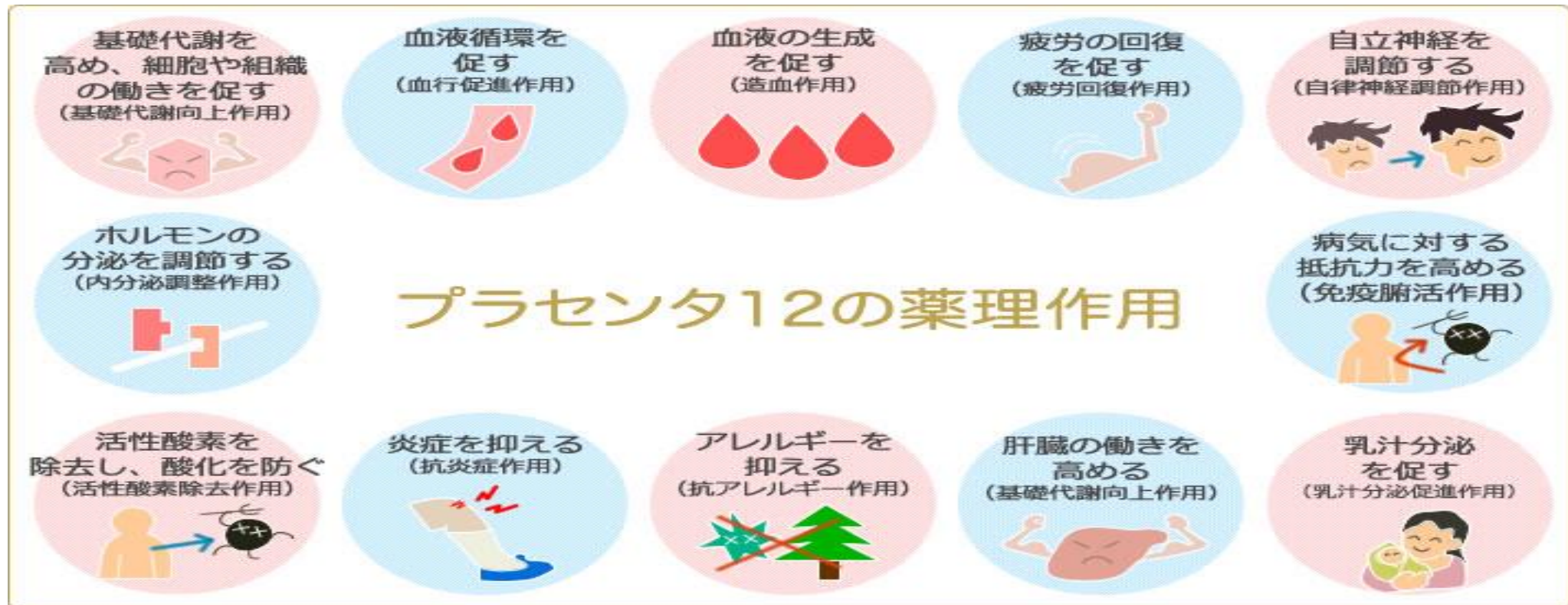
- 活性酸素は紫外線やストレス、喫煙、食品添加物などの様々な原因で発生し細胞を傷つけ老化の原因となりますが、プラセンタには活性酸素を抑制する抗酸化作用があります。

- **免疫力を高める効果**

- プラセンタに含まれる核酸や成長因子によって、免疫力を高める効果が期待されます。

プラセンタの効果2

- 自然治癒力を強化することによって、自分の力で病気や身体の
- 不調を慢性化させないように働いてくれると言われております。



プラセンタのよく効く病気一覧

- 内科（慢性疲労症候群、胃弱、片頭痛、肝機能障害など）
- 整形外科（肩こり、五十肩、腰痛症など）
- 婦人科（更年期障害の諸症状、冷え性など）
- 皮膚科（蕁麻疹、肌荒れ、シミ、湿疹など）
- 心療内科（自律神経失調症、うつ病など）
- 耳鼻咽喉科（花粉症、耳鳴り、めまいなど）
- 美容、アンチエイジングなどに効果があると謳われています。

プラセンタの副作用

- 注射部位の疼痛、発赤、発疹が見られることがあります。

プラセンタの安全性

- ウイルスや細菌などに対する安全性
- 肝炎、HIV陰性が確認された胎盤を使用し、さらに高圧蒸気滅菌による感染防止対策をとっており、これまで本剤によると思われるウイルス感染の発生報告はありません。
- クロイツフェルトヤコブ病に対する安全性

献血制限、臓器提供制限

- これまでメルスモン注射によるクロイツフェルトヤコブ病の感染報告はありませんが、危険性を完全否定できるわけではありませんので、メルスモン注射剤を含む人胎盤由来医薬品の使用者は**献血はできません。**
- **妊娠中授乳の方には投与を行っておりません**

- 当院ではメルスモンを採用しております。1回1アンプルを皮下注射します。はじめの2ヶ月は週に2回、その後は週に1回のペースで行いますと効果的のようです。
- 2－3回で効果を実感される方が多いようです。
- メルスモン1A 1400円でご提供させていただいております